

ピュアライド水性UVプロテクトクリヤー  
水性2液形高意匠サイディングボード用超低汚染シリコン系外壁保護クリヤー 日本ペイント株式会社  
製品使用説明書

## 特 長

- ・デザイン性の高いサイディングボードの美しさをそのままに、さらに長持ちします。
- ・高耐久性に優れた2液形アクリルシリコン樹脂塗料です。
- ・耐汚染性、耐紫外線性、耐薬品性にすぐれています。

## 塗 料 性 状

		塗 料 液 (主剤)		硬 化 剤		
色		乳白色		無色		
密度(g/cm <sup>3</sup> )(23 )		1.03				
光 沢		つや有り、3分つや有り				
引 火 点		-		111		
発 火 点		201 (参考値)		201 (参考値)		
消防法 表 示	化 学 名	-		合成樹脂クリヤー塗料		
	危険物区分	-		第4類 第3石油類(非水溶性)		
	危険物等級	- (-)		III (火気厳禁)		
有 機 溶 剤 区 分		なし		なし		
毒 劇 物 表 示		-		-		
有 害 物 表 示		-		-		
ホルムア ルデヒド	登録(認証)番号	1804037				
	区 分 表 示	F				
放散等級		問合せ先				
国 連/指 針 番 号		-		- /171		
環 境 性 能	クロル <sup>レ</sup> リス	配合せず	ホルムアルデヒド	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン	配合せず	パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	配合せず
	スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テレフタル酸	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ダイオキシン	配合せず	アトアルデヒド	配合せず
	フェノール	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		6%				

- ・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

## 塗 装 基 準

混 合 比 :

2液形のため、「塗料液(主剤)：硬化剤=14：1(重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。

荷 重 姿 :

15kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤=14kg：1kg)

ポットライフ :

6時間(23 )

希 釈 剤 :

水道水

塗 装 方 法 :

塗 装 方 法	エアスプレー塗り	はけ、ウールローラー塗り
希 釈 率	20～30%	0～10%
使 用 量	0.10～0.16kg/m <sup>2</sup> /回	0.10～0.16kg/m <sup>2</sup> /回

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

## 乾 燥 時 間 :

	5～10	23	30
指 触 乾 燥	1時間	30分	20分
塗 り 重 ね 乾 燥	4時間以上	4時間以上	3時間以上

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## 注意事項

- ・被塗面の洗浄やエフロレッセンスの除去に酸性洗浄剤・アルカリ性洗浄剤などの薬剤を用いる場合、薬剤洗浄前に被塗面に十分に水を含ませてください。薬剤洗浄後の水洗工程は、高圧水洗もしくはブラシなどを用いて入念に行ってください。薬剤が壁面に残存したまま本品を塗装しますと塗膜の縮み、白化、はく離を起こすおそれがあります。水洗後、塗装面のpHを確認する場合は、pH試験紙を塗装面に押し当てて測定してください。
- ・光触媒のサイディングボードには適応しておりません。光触媒処理を施した素材には、塗膜劣化が早まるなど不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
- ・つや調整品を使用する場合は下塗りに「つや有り」をご使用ください。つや調整品を2回塗りしますと、つやむらが生じることがあります。
- ・絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・シーリング面は、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがあります。
- ・吸い込みやすい基材では使用量が多くなります。
- ・塗装後は濡れ肌になるため、既存色より濃くなりますのでご了承ください。特に劣化が著しい場合は色調の復元にばらつきがあります。不安な場合は試験施工を実施して仕上がりをご確認ください。
- ・仕上がりむらになりやすいため、ニッペカラーマックスWエコや各種現場調色用着色剤を使用して調色することは避けてください。
- ・経年したサイディングボード面への塗装は、劣化が進行しており、表層内劣化部からはく離するおそれがあります。試験施工をおこなって付着性を確認してください。
- ・つや調整品を使用の際、吸い込みが著しい場合には、乾燥後吸い込みむらによる目地部の白化（つや消し剤のたまり）を生じることがありますので、1回目の塗装時に表面に塗膜が残らないような場合はつや有りを増し塗り、もしくは2コートして吸い込みを止めてから上塗りを塗装してください。下塗りには必ずつや有りを使用してください。つや調整品を下塗りに用いますと前述の目地部白化が生じやすくなります。
- ・目地部が深く、ローラーなどで入りきらない場合は、目地はけなどで塗装してください。
- ・目地部の塗料たまりや被塗面にダレを生じた際は、目地はけ、ローラーなどでむら切りし、除去してください。
- ・クリヤー仕上げは下地の状態をそのまま表出してしまうため、下地の劣化が著しい場合はおすすめてできません。ヘアクラックなどの発生がなく、かつ築後10年以内であることをいちおうの目安にしてください。
- ・下塗り材にエポキシ樹脂塗料(ニッペ浸透性シーラー(新)など)は使用しないでください。変色、はく離の可能性があります。
- ・水洗後晴天下で必ず1日以上乾燥させてください。乾燥が不十分である場合、クリヤー仕上げのためボードに残った水分の影響による外観上の不具合が目立ちやすくなるおそれがあります。
- ・つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- ・つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- ・過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- ・つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- ・つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かはんしながらご使用ください。
- ・被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- ・塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
- ・乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- ・スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
- ・乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- ・動物はけは、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- ・塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ・塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けてください。また、これらの部材に塗膜が直接接触することがないようにご注意ください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.

この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。